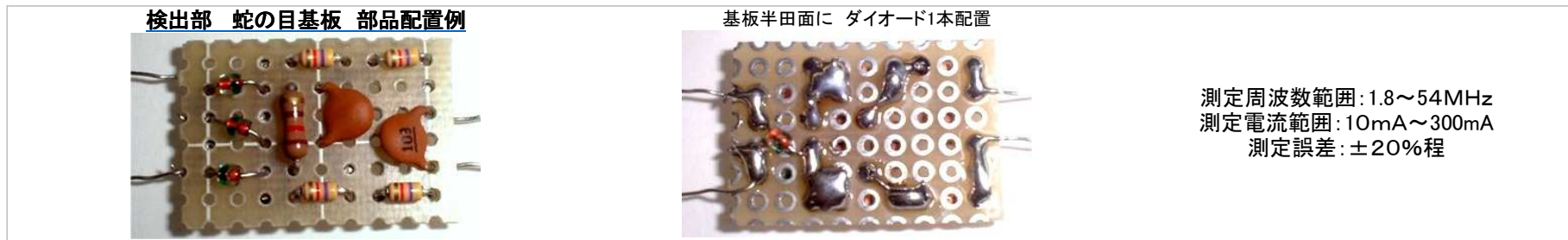


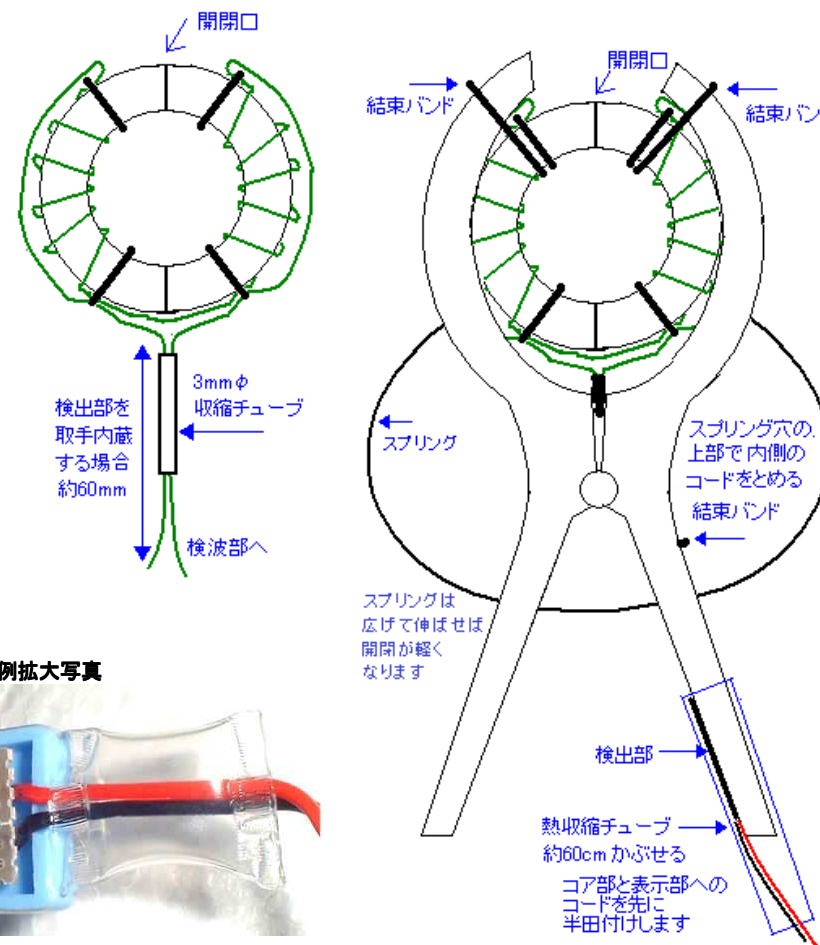
デジタルRF電流計バージョン2 製作例



測定周波数範囲: 1.8~54MHz
 測定電流範囲: 10mA~300mA
 測定誤差: ±20%程

検波部基板を取手に内蔵配置した 製作例

- ①右側のクランプコアの巻き方例の通りナイロンクランプコアに10回巻きして電流トランスを作ります 検出部へのコードに、右図のように3mmφの収縮チューブを通します
- ②特大洗濯バサミ(ビックピンチ)に右図のようにはさんで、開閉口に近い方で結束バンドで固定します (検出部へのコードは内側のすき間から取手の方に通しておきます)
- ③蛇の目基板で作った検出部にコアからの線と、表示部への赤黒平行線を、それぞれ半田付けします
 コアからの線は、検波部製作例の写真のように、スプリングの間を通して検波部基板につなぎ、開閉がスムーズになるよう取めます、スプリング穴の上部でコードを固定します
- ④透明の熱収縮チューブを、赤黒平行線側から通して、取手の内側に収めた検波部基板ごと、かぶせます
 強力ドライヤーなどの熱風で、収縮固定します
- ⑤赤黒平行線の先に、ミノムシクリップを半田付けします

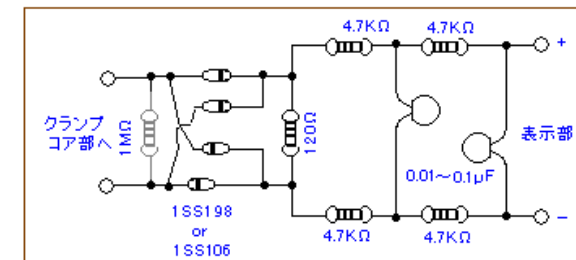


検波部基板をコード中間に配置した 製作例



テスターに接続した例

Ver2: 検波、平滑部 構成図



高周波電流=1/10 表示電圧 (電流:電圧比は1:10)
 1MΩは、空中バラック配線で組む場合の、機械的補強用です
 基板などに組む場合は、不要です



..... クランプコアの巻き方例

クランプコアにビニール被膜線を10回巻きします(コア内通過数) (ナイロンクランプの上に巻きます)

ビニール皮膜線は、半分に折り曲げて、中間にしるしをしておきます

巻き方の例を紹介します
 参考になれば幸いです

<p>①クランプコアに結束バンドを4本仮止めします</p>	<p>②ビニール皮膜線の中間を図のようにコアの下側に合わせ、結束バンドに通して、半分のコアに5回巻きます(コア内通過数)</p>	<p>③残り半分のコアにも5回巻きます 図のように、巻き方向は同じにします 合計10回巻きとなります(コア内通過数)なるべく等間隔に巻きます</p>
<p>④ビニール皮膜線の端は、巻き線の外側(上側)を折り返し、図の下側の結束バンドに通します 両端とも同じようにします</p>	<p>⑤完成例-1</p>	<p>⑥完成例-2</p> <p>巻き線の内側を折り返した例です</p>

電流トランスの製作例

ナイロンクランプの上から10回巻、開閉口のナイロンの突起部分はカットしました

